

2024 年 12 月 62 号

25 周年記念号

# エクレーシア

(編集人) 社会福祉法人サワリ

〒590-0811 大阪府堺市堺区南陵町 1-2-6

電話：072-280-0830 FAX:072-241-7772

ホームページ URL：http://www.sawari.or.jp

## 「時を待つこと」に意味がある

金 永泰

精神の世界における 25 年の取り組みを振り返ってみると、自分でも驚くほど大胆なことをやってきたと思う昨今です。とにかく、精神の世界に生きる人たちに必要な社会資源を造る時に起こった出来事は話だけでは伝わらないでしょう。やはり、自分が直接体験しないと解らないことです。・・・できたら、そんな体験はしないで、これからは社会資源を考える担当者と一緒に取り組んでいく中で「時を待つこと」です。正直なところ「時を待つこと」も忍耐が必要ですが「時を待つこと」を疎かにすると私が体験したようなことになるから「時を待つこと」です。今年中にとっていたことがありましたが、「時を待つこと」になりました。

さて、今年最後のエクレーシア発行となりました。そして、社会福祉法人サワリの大きなイベントとしては 11 月 16 日(土) 10 時半から 14 時半までの第 8 回サワリ感謝祭でした。

ところで、地域の皆様や全国のエクレーシア愛読者の皆様には、「感謝する」という心しかありません。2024 年 6 月(61 号)のエクレーシアにも記載しましたが「共生型生活介護事業」を始めたことは「就労 B 型に通所される方が歳を重ねた時にサービスピアの利用が可能になるし、生活改善・規則正しい生活リズム・清潔保持・生活の質の向上」に繋がっていくことが分かりました。更には「病気の回復」に結びついたという驚きの効果です。・・・精神の世界では「驚きの効果」どころではないのです。「回復」に結びついている訳ですから。サービスピアにとってもプラスの事業となっています。今年の実りある取り組みが新たな年に繋がるように気を抜かずに最後まで貫き通す決意です。新たな年には「時を待つこと」の「時(カイロス)」が来て、必要とされている社会資源が実現できるように努めて参りますので見守り続けてくだされば幸いです。

最後に、地域の皆様や全国の皆様の後方支援に対して利用者さんとスタッフを代表して感謝申し上げます。同時に、皆様とそこに関係する人たちの上に安らぎと癒しが添えられることを祈ります。それと新たな年に“シャローム”(ヘブライ語で“平和”と言う意味)が添えられることを祈ります。

# フードを被った猫

神童 工

## 第2話

そして、次に向かったのが、中国の北上した所にある、大韓民国(韓国)だ。ここで、最初の猫科猛獣のヒョウにバトル(キャットファイト)を申し込む事になった。このヒョウは、寒冷な山地から熱帯雨林、乾燥地帯から湿地帯まで、ネコ科では分布域が最も広い事で知られる。このヒョウの名前は、オスで、ケテルと名乗った。フランクリンと天仙娘娘は、先手を制したものの、苦戦を強いられた。ヒョウの跳躍力としなやかな筋肉から繰り出される、パンチが強力だった。又、とても素早く動く為、いくら二匹がかりとはいえ、強敵と化した。しかし、最終的には死角からのフランクリンの猫パンチでノックアウトした。時間にして、2時間位のものだろう。

2匹とも、疲労困憊(ひろうこんぱい)の体を引きずって、取り敢えずは、疲れを癒す為、民家の軒下(のきした)へ避難する事になった。その間、天仙娘娘は、フランクリンの傷を舐め、時折、食べ物を盗んで来ては、(人間から)肉や水などを分け合って、頂いていた。この献身的行動のおかげで、フランクリン及び天仙娘娘は見事に回復していった。

そして次なる目的地を北朝鮮へと定めた、二匹の猫は、韓国を後にして、進路を北へととった。金正恩(キムジョンウン)が治めるこの国は軍事国家だ。よって、警護が嚴重だ。猫2匹といえども、入り込むには、少々、手間取ったし、頭も使った。勿論、多少の怪我人も出してしまう結果になった。(暴れ回った為)

これによって、多少、悪名が轟いたのか、指名手配される事につながり、顔写真付き手配書だった為、フランクリンは、黒色のフードを頭から被(かぶ)って、顔を隠すようになった。

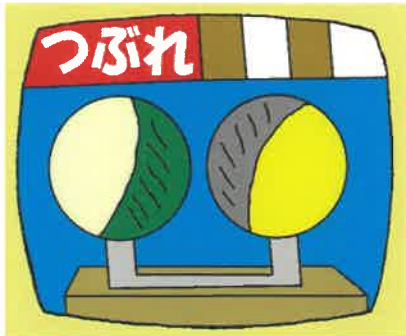
このフードは、フランクリンが、人間から盗んだものだ。(人間の子供から)

これにより、猫科猛獣の一大勢力から命をつけ狙われることになった訳だ。

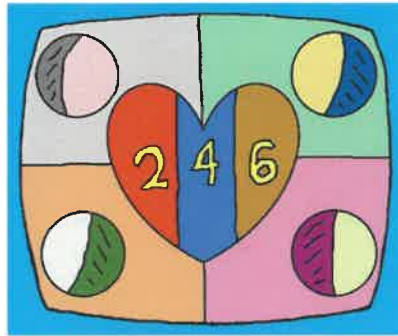
そして、北朝鮮をあとにした、二匹の猫は、次の目的地をベルギーに見定め、ベルギー行きの貨物船へ乗り込んだ。ベルギーはチョコレート発祥の地であり、ヨーロッパにある国家だ。只、猫はチョコレートを食べれないが。

## マイビクチャ

ムーンボーイ



▲キーカラ・キークル



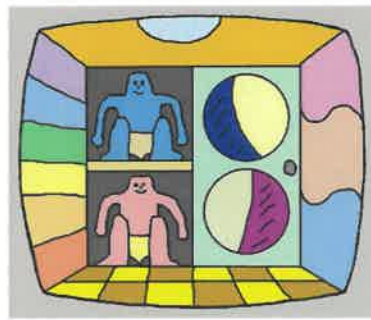
▲にしろはーと



▲海渡御



▲カエルポーズ



▲オスウィーレ・ツーリップ



▲デーチェン

# たまげたわぁーAI

かつおぶし

いま、世の中をさわがしている人工知能 AI。ずば抜けた頭脳とその明確な答えをかもしだしている。

いずれにせよ、天才型ロボットだ。

この AI は今、色々な所で使用されている。人間達はこの AI のあり方に驚き、喜んで、まるで AI を神様のようにあおぐ状態である。でもこの AI を誕生させたのは人間であることを世の人たちはわかっているのだろうか？あくまでも人間が造りだしたのであるのは事実であるからしていまこの AI をめぐって議論がもちだされている。それは“AI”、機械社会が人間社会を飲み込もうとしているからである。

人間たちの知恵や知識をこえてひとり歩きしている気がするのである。

ほめられればほめられるほど“AI”は進化してゆきそうでもある。しかし“AI”を造りだしたのは人間なのであるから何とも言えない気もする。

その中あるハカセがこう思った。今も昔も変わらぬ。このロボットの考え方、あり方がそうなのである。

もともとロボットには感情がない。あっても人間が作ったあるチップにデジタル化したものを打ち込んでいる他に何も無い。

人間はもともと感情のある動物である。だから人の痛みが分かり、喜びや悲しみも共有できる。涙も流せるし怒りによつてのぼせあがり熱も出る。人間性の良し悪しもあるけどそれなりに許しあえる関係も出来るし抱きあうことができる。

愛情の深さにより優しさやいつくしみ情熱ありきで己にパワーを与えることが出来る。

愛には形が色々あるがやはりロボットにはない。

また、人には命がある。

しかし人、人間には生と死があるからこそいいのであつて起死回生のように再びよみがえっても何故か命の重みがなくなり、やがて永遠の命としてあげられ生きていても楽しみがなくなるのではないかと思うのである。

だからこそ命を大切にしないといけないし私たちは人間だからこそいえるのである。

ロボットにはチップというものが尽きる(死)と人間と同じように命の値にあたいするものになるが、又チップをデジタル化したものをうち込めば又命が復活する。

でもこれは人間が造りだしたロボットの性質の機能が働いたものである。

罪人とは問えないが、こんな“AI”の誕生から共有すべきもの、何かといえば、たやすいものかもしれないが、“AI”、“ロボット”達と人間達のおぎないあう所はおぎないあつて、ほどほどに付き合うことが大事で、これで人間社会は飲みこまれにくくなるのである。これだけのことである。

この定義が守ればとのことで人間達もロボットたちも手と手を取りあつてゆければ…。

ほどほどにするか！

これはハカセの一人だんぎだが、でも世の中では、ひそかにこの議論がもちだされている。

君たちは今の社会をどうみる？

どうしたい？

無認可船舶会社は、また（カースハス 1999年10月  
南所。和歌山 1998年10月南所。和歌山はカースハスと  
合併（事業統合））。作業所は25周年を迎える。  
その間、無認可時代→NPO法人→社会福祉法人と  
法人人格がうつりかわりました。  
本当にいろいろな出来事に遭遇しました。周囲  
の人たちに助けられて乗りこえてきました。無認可時代  
に比べて事業内容もゆたかになりました。  
その事業内容が利用者さんにとって必要な内容  
であればいいですね。今後は社会福祉法人  
サクリの中に、今までとは違う新しい風（ルーティン）  
が吹く。利用者さんに必要で事業展開ができてい  
くことを願っています。

# 生きぬく

金 安奈

学生時代にアルバイトの続かなかった私が、入職して20年経ちました。それは、精神の病気を発症して20年経ったということです。

私は24歳で発症し、約半年間の治療を受けた後、当時の主治医の先生から、「また何かあったら来てください」と言われ服薬の必要がない状態となりました。それから社会福祉士、精神保健福祉士を取得。5年後に、症状が再燃し、病名がつきました。主治医の先生は「まぐれの5年間」、別の先生は「奇跡の5年間」と表現され、どちらも事実なのだと受け止めています。治療・服薬が再開し、15年経ちました。

入職時の私は、石橋を叩いても叩いても渡らない私でした。主治医の先生は「夜更かし、飲酒は禁止。服薬を守る。」、そのこと以外は何をしてもいいと仕事を続けたいとの希望の私の背中をくり返し押してくれました。そうして過ごしていく中で、様々な経験を振り返ると、望むと望まざるとにかかわらず自然とチャレンジすることに導かれている自分が存在していることに気が付きました。

今まで、その私の体験を表現する機会が何度も与えられました。そうして自身の中で堂々巡りしていたことを表現して、現実と触れ合うことを通じて、新たな価値観に出会っていくことにつながりました。世の中の価値観から自身を解放させるとは、自分自身の中に閉じこもり守ることではなく、自己責任の下で自身を開示し（誰にでも平等に開示しなければいけないものではありません）、人との関係の中で確認しあいながら確かさを育んでいく必要があることを実感しています。

3年前、法人研修の中で講師の先生から「使命感をもって」という言葉をいただきました。私は精神の病気を患う当事者として、世の中を変えるためには存在していないと、そのことについて頑なであったように思います。そのような方向にエネルギーを使うことに恐れがあった、自身がつぶれてしまう、自分らしさを失うと思っていました。それくらいに、世の中は当事者に対して冷酷であるとある面で失望していたのだと思います。しかし、多くの方々との出会いで希望が勝って、今があります。

私は、これからも仕事を続け、自分が自分で良しとできる今を生きるために、「夜更かし、飲酒は禁止。服薬を守る。」。病気の症状と付き合うこと、お薬を合わせていくことは、非常に忍耐力が必要で、孤独を強く感じます。しかし、私は、独りではなく、幸せです。孤独を感じるのと独りであることは異なっていると思います。その方の人生に代わることはできないけれども誰一人として独りではない。出会ったときに、「私は独りじゃないんだ」と感じてもらえるような存在になりたい。今まで出会ってくださった方々がそうであったように…。

いついかなるときにも感謝の気持ちを忘れずに希望を見出して生きぬきたい。かけがえない出会い、人生。本当にありがとうございます。

# Watashi no Kimochi わたしのきもち

Q) 先ずは自己紹介をお願いします。

渡利直樹さん) 私は、渡利直樹です。ポケットに通所するようになった日の記憶がありません。

Q) ポケットを知るキッカケは何ですか？

渡利直樹さん) 入院していて退院してからですが、グループホームに先に入りました。その後いろいろスタッフさんと相談してポケットに通所するようになりました。

Q) 話は変わって、趣味についてお話し下さい。

渡利直樹さん) 私はギターを弾くこと、歌を唄うのも好きです。特に若い人の歌を唄うのが好きです。

Q) 余暇の過ごし方等をお聞かせください。

渡利直樹さん) グループホームにすることが多いです。たまにギターを弾きます。それ以外はテレビを観たり、音楽を聴いたりしています。あとは横になっています。

Q) ポケットで新たにやってみたいこととか有りますか？最近、糸ほどきをするようになりましたね。

渡利直樹さん) 特にないです。糸ほどきは楽しいです。

Q) ポケットに通っていて良いところ、改善してほしいところ、期待、希望などが有ったらお聞かせください。

渡利直樹さん) 少し作業ができるからうれしいです。利用者さんと話しやすくなりました。希望は友だちをたくさんつくりたいです。そしてポケットの人と仲良くすることです。

Q) 今回のエクレーシアで、伝えたい事、知ってもらいたいこと等、ありますか？

渡利直樹さん) 20歳の時に入院して26年間もいたので、入院よりも早く退院したほうがいいことです。46歳の時に退院しました。入院中に患者同士がけんかするのが嫌だった。退院してよかったことは自由になったことです。

Q) 病気の回復にしている事があれば聞かせて下さいますか？

渡利直樹さん) 20分くらいウォーキングをしています。共同生活なので人のことを悪く言わないことです。安心してよく眠ることです。

Q) 最後に、今、そしてこれから取り組んでいけそうなことなど、考えがあったらお聞かせください。

渡利直樹さん) 人をバカにしないことです。スタッフを尊敬することです。あるスタッフがよくしてくれるのでありがたいです。ポケットの通所が火曜日だけなのでもう1回増やして金曜日くらいポケットに行きたいです。



## ❀ ピパ通信 ❀

2024 年がスタートして、もうすぐ一年が終わろうとしています。

春にはお花見に大仙公園を散策に出かけ、夏には五目そうめんや冷麺をみんなで食べ英気を養い、猛暑を乗り切り、秋にはサワリ感謝祭をみんなで楽しみ、この先の厳しい冬にはクリスマス会で歌を歌い、ケーキを食べ楽しむ予定です。

一年を通して、季節の移ろいをその時々で一緒に楽しみ、とても実りのある時間を利用者さんと一緒に楽しめることをとても幸せに思います。共生型生活介護の皆さんもデイサービスピパの皆さんもとても仲良しで笑顔の絶えない日常が続くピパです。

最後に、今年も一年共生型生活介護ピパ、デイサービスピパをご支援賜り誠に有難うございました。来年も利用者の皆様、ご家族様が安心してご来所いただけるようなサービス提供を心掛けてまいります。何卒宜しくお願い申し上げます。

ピパ職員一同

## 全国からの寄付

### 【寄付】

(大阪)山中紀代子 金美優・呉多美 青木雅俊・玲子 栗倉保夫 詠田三郎 朴栄子  
申英子 都木恵子 崔金順 在日大韓基督教会大阪教会女性会  
(兵庫)高クリニック:高光重  
(愛知)在日大韓基督教会名古屋教会  
(長野)中部地方教会女性連合会  
(京都)金山美知子  
(滋賀)井田泉  
(神奈川)片山禎二 郭鐘洙 金達弘・信栄 李契順 平塚中原教会  
(千葉)八街グレイス教会  
(東京)藤田美土里 藤田誠 中村邦介  
(広島)香山洋人  
(福岡)朴仙容・金恵美子 株式会社海龍:南川龍浩 株式会社仙容:南川聖洙 北田博子  
崔正剛 有限会社アプロ:柳在旺  
(北海道)笹森田鶴

### 【寄贈】

笹野郷美 土谷渉人 枡矢和利 匿名

順不同・敬称略

## 編集後記・お知らせ

○全国の皆様に様々な形で支えていただき、心より感謝申し上げます。

○イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」について

毎月 11 日、イオン金岡店様に投稿ボックスを設置していただいています。お買い物の際は、「社会福祉法人サワリ」の投稿ボックスに黄色いレシートを入れていただけると幸いです。

※発送先の変更、訂正などありましたらご連絡くださいますようよろしくお願いいたします。

※おことわり:原稿を書いた人のありのままを伝えたいので、出来るだけ本人の書いたまま掲載しております。